Regional Development

世界のUNHCRのニュースから

2002年ナンセン賞、ノルウェー船タンパ号の乗組員に贈られる

昨年8月、インド洋上で難破船から数百人の庇護希望者を救助したノルウェーの貨物船タンパ号の船長、船員、そして船主に対し、2002年ナンセン賞が授与された。この賞は、毎年、難民のために優れた働きをした個人や団体に贈られている。

アルニー・リンナン船長と船員たちは、6月末にノルウェーの首都オスロで開かれた式典で、ソニア・ノルウェー王妃とルード・ルベルス国連難民高等弁務官からメダルと賞状を授与された。リンナン船長らは、巨大な貨物船の航路を変更してまで438人のボートピープルを救助。その後、タンパ号がオーストラリア政府に寄港を拒否された事件は、国際的な大論争を巻き起こした。ナンセン賞委員会は、今回の授賞は海上救助の原則を貫いたリンナン船長らを称えるものだと発表している。

UNHCR/S.HOPPER/DP・2002

2002年ナンセン賞の受賞者とルベルス難民高等弁務官（右から2人目）。

アフリカ平和と紛争の兆し

2002年初めの時点で、アフリカにおけるUNHCRの援助対象者は420万人以上。しかし今年半ばまでに、アフリカで最も残虐で長く続いた二つの内戦の終結に向け、大きな動きがあった。

10年におよぶ内戦で避難民数十万人、死者5万人を出したシエラレオネでは、戦闘が終わり、世界最大の平和維持活動となった1万7400人の国連軍が見守る中、平和的な大統領選挙と議会選挙が行われた。また、内戦の沈静化で16万2000人の難民が帰還したが、近隣諸国にはまだ同じ数の難民が残っている。

アンゴラでも、反政府軍の指導者ヨナス・サビンビの死後、停戦協定が結ばれた。内戦により少なくとも400万人が国内で避難民となり、50万人近くが近隣諸国に流出した。再び戦闘が起きなければ、来年にも帰還が始まる見込みで、翌2004年には選挙も予定されている。

UNHCR/J.AUSTIN/CS・SLE・2000

故郷をめざすシエラレオネ難民。

コンゴ民主共和国では、不定期ながら平和を模索する話し合いが行われている。一方、ブルンジでは、暫定政府発足後、タンザニア西部のキャンプから難民の自力での帰還が進んでいる。

一方、新たにさまざまな問題も起きている。リベリア内戦の再発は、この国だけでなく近隣諸国の安定を脅かしている。また、コンゴ共和国とコンゴ民主共和国も不穏な情勢だ。「アフリカの角」諸国でも戦闘は続いていて、これらの地域から新たな難民が生まれている。

国連「世界難民の日」展、開催される

UNHCR日本・韓国地域事務所は、日本国連HCR協会との共催で、国連「世界難民の日」展を開催した。この展示会は、学校法人 杉野学園と文京学院大学の協力を得て、今年の「世界難民の日」を記念し、6月20日～7月19日までの間、東京・渋谷のUNハウスにて行われたもので、およそ2000人が訪れた。

「難民女性」をメインのテーマに約90枚のパネルを展示。難民の歴史の他、写真家・今岡昌子さんや毎日新聞社会事業団から提供された写真、UNHCRの箱﨑広報官が撮影してきたアフガン難民・帰還民などの写真が来訪者の目を引いた。また、難民援助に関わるNGOの協議会PARinACから7団体が展示に参加し活動を紹介した。

展示の説明を受ける緒方貞子・前難民高等弁務官。